

機関リポジトリと オープンアクセス

青森中央学院大学 図書館情報センター
葛西 崇文

t-kasai@aomoricgu.ac.jp



説明のポイント

- ①用語の説明と背景
- ②OAの実現方法
- ③IR運用上の注意点
- ④OAの課題と今後

用語の説明

- 機関リポジトリ (IR)

教育研究活動の成果物を保存し、提供するシステム。

- オープンアクセス (OA)

学術的研究成果に誰でも無料で、無制限にアクセスできること。

背景

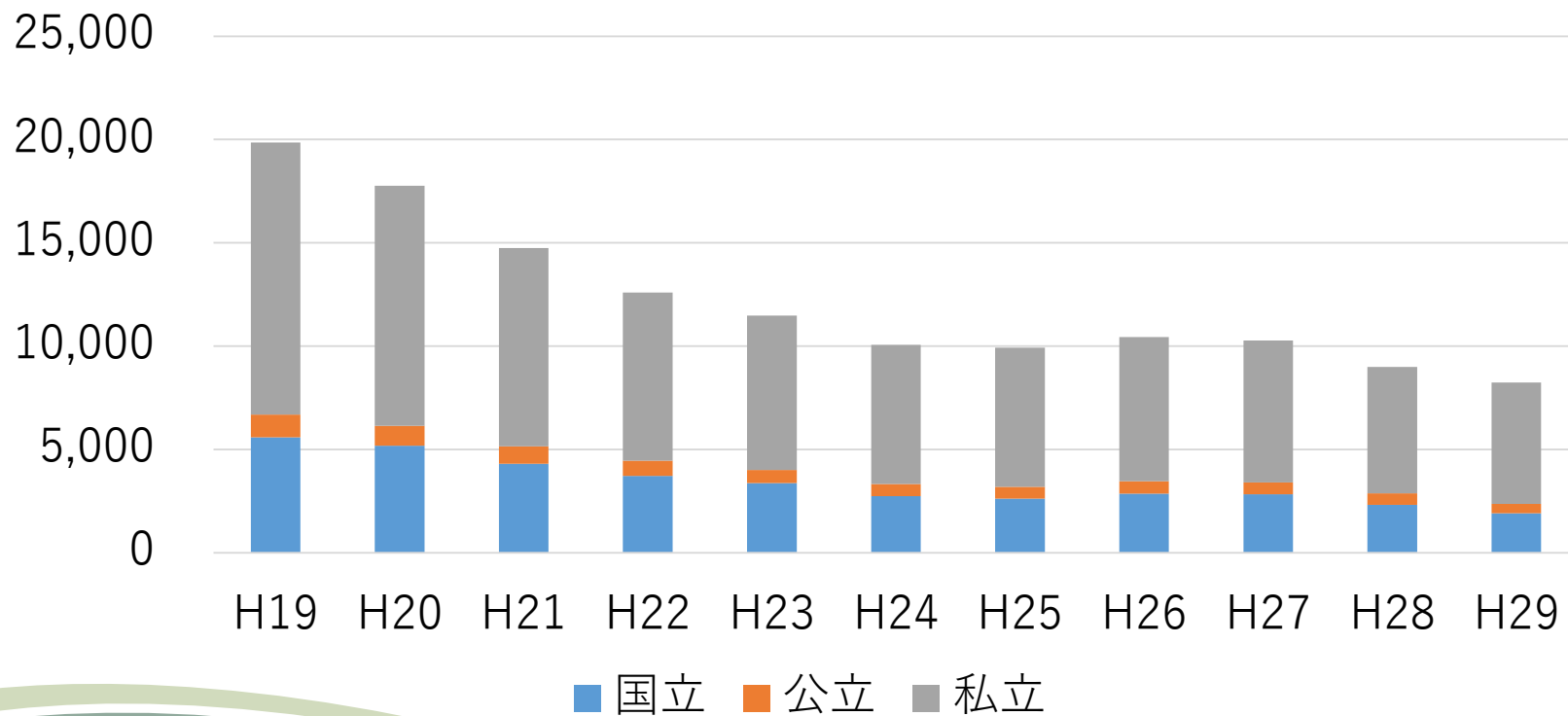
- 学術雑誌の値上がり

値上がりの続く学術誌を、購読し続けることには限界がある。

- 対抗手段としてのOAとIR

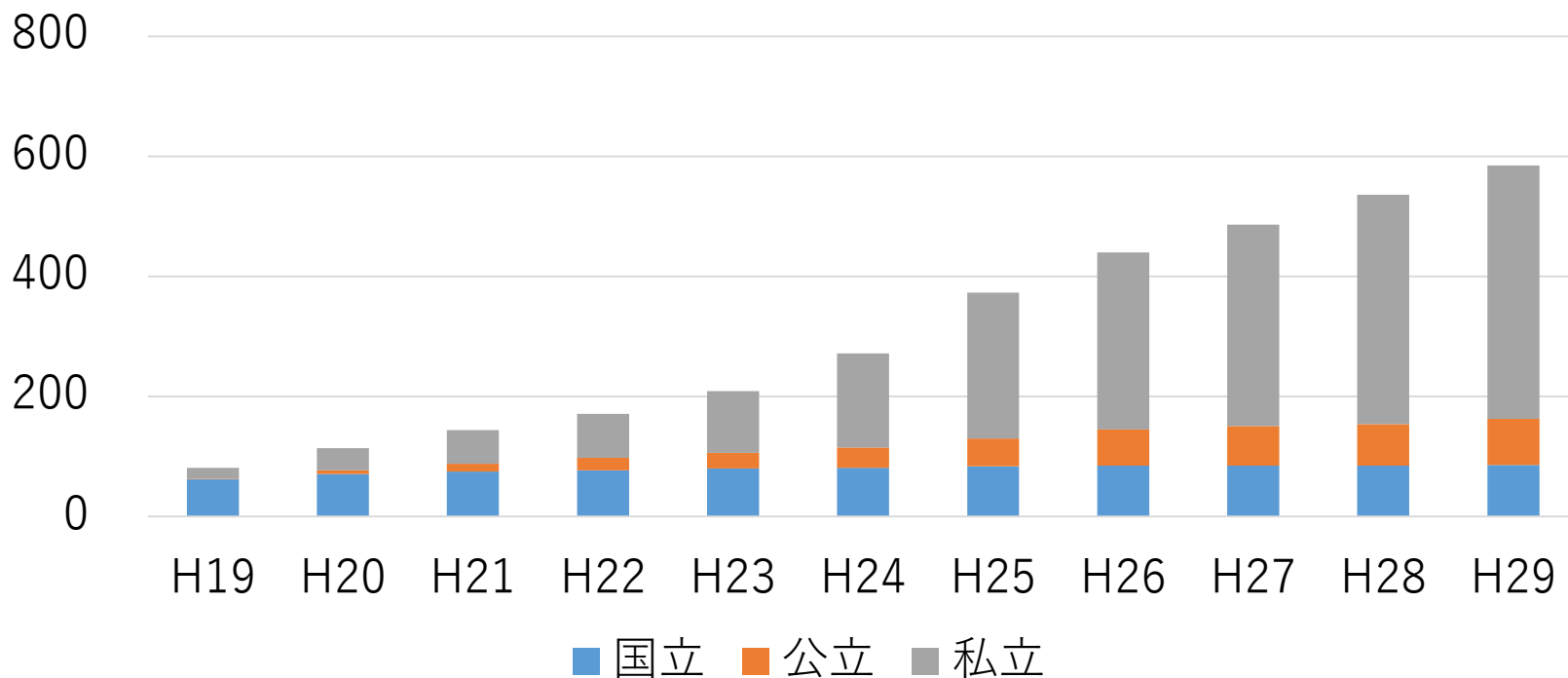
IRが研究成果の受け皿となり、OAでビジネスモデルに対抗する。

洋雑誌購入経費の推移



単位：百万円
文科省学術情報基盤実態調査より

IR構築大学数の推移



単位：大学
文科省学術情報基盤実態調査より

OAは無料で実現できるのか？

- “アクセス”は無料

誰でも無料で、無制限に“アクセス”できても、その手前では費用が発生する。

- OA実現の方法

OAを実現するには、主に2つの方法がある。

ゴールドOA

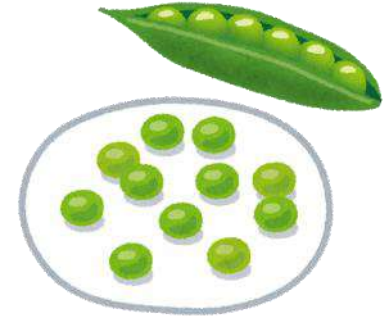


- 著者が費用を負担

OA誌に対して著者が論文掲載料 (APC) を支払う。

- 費用免除、補助の可能性

OA誌発行元のAPC免除、所属機関の補助、科研費からの支出の可能性がある。



グリーンOA

- 購読者が費用を負担

雑誌を購読している図書館や読者が購読料を支払う。

- IRを利用してOAを実現

掲載論文のコピーをIRに保存できる。
セルフアーカイブともいう。

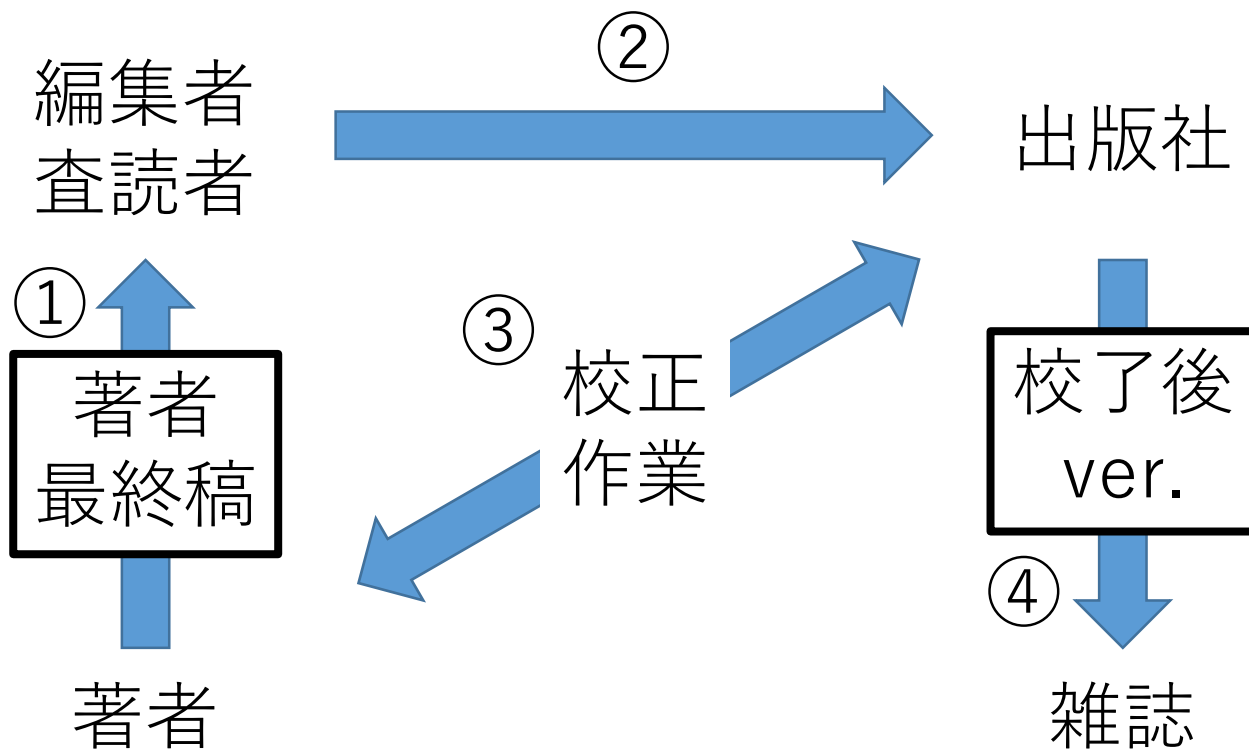
グリーンOAの注意点

- 著作権ポリシーの確認

学会や出版元には、団体ごとに著作権についてのポリシーがある。

査読前・査読後どちらの原稿もIRに登録OKなのか、そのどちらかなのかなど、確認が必要となる。

原稿の違い



① or ④ ⇒ IRへ

SCPJのデータベース

学協会著作権ポリシーデータベース
Society Copyright Policies in Japan

English/Japanese

SCPJ

学協会の方 図書館の方

TOP PAGE | SCPJについて | 論文の著作権 |

学協会の著作権ポリシーを調べる

● 学協会名から検索

(学協会名の一部から検索できます。and検索が可能です) [詳細検索](#)

● 雑誌名から検索

(雑誌名、ISSN、NCIDの一部から検索できます。and検索が可能です) [詳細検索](#)

学協会著作権ポリシー一覧

<input checked="" type="checkbox"/> Green 査読前・査読後の どちらでもよい	<input type="checkbox"/> White リポジトリへの保 存を認めていない
<input checked="" type="checkbox"/> Blue 査読後の論文のみ 認める	<input checked="" type="checkbox"/> Gray 検討中・非公開・ 無回答・その他
<input checked="" type="checkbox"/> Yellow 査読前の論文のみ 認める	ポリシー別統計

登録学協会数 2,619件
(うちGreen160件、Blue871件)

IR運用上の注意点

- 紀要等の学内成果物を登録する場合

学内合意形成、管理運営部署の決定、登録者・範囲の決定、複製権・公衆送信権の許諾などの手続きが必要になる。

過去の所属教員への許諾、公開差止請求への対応も必要になる可能性がある。

IR運用上の注意点

- 学外誌掲載論文を登録する場合

前述の学協会著作権ポリシーを確認する以前に、「投稿先の雑誌に掲載されれば良い」、という研究者の考えに働きかける必要がある。

論文を書く目的はいかに。

OAの課題

•ハゲタカジャーナル

APCを支払うだけで、適切な査読をせずに論文を掲載する学術誌のこと。

投稿先の学術誌が、清く正しいOA誌なのかどうか、研究者は確認しなければならない時代であるが・・・。

OAの今後

- 新たなビジネスモデルの推進

CERNは、SCOAP3というOA化プロジェクトで、購読料を出版料に振り替える“フリッピングモデル”を推進しています。

他にも、OA2020などの取り組みも行われています。

※SCOAP3は高エネルギー物理学分野に限定した取り組みです。

OA2020

- 読めない、払えないを回避

購読の壁に阻まれている今日の学術誌をOAへ転換することにより、世界的なOAへの転換を加速させようというグローバルなイニシアティブ（JUSTICE, OA2020に関するFAQ）。

まとめ

IRの数は増加し、国内でもOAの基盤は整いつつある。世界的にも、OAの推進が確実に進められている。

このようなOAの潮流に、できる範囲で、組織と個人の両方で寄与し続けることが大切ではないでしょうか。

ご静聴いただきましてありがとうございました。
質問はメールでも結構ですので、お気軽に。

青森中央学院大学 図書館情報センター

葛西 崇文

t-kasai@aomoricgu.ac.jp